

に言ふのではない、眞にこの文化的生活を向上せしむるが爲には、正義を正義として闘ふことは賊軍と戦ふよりモツと熱烈なる精神が無くてはならぬ。それが分らぬから何時までも混沌として思想界が覺醒めて來ない。斯の如く論ずる者を固陋であるとかナンとか言つて、唯だどちらでも宜しいと言ふ者が穩健であるとか、包容的であるとか行つて居るから、その間に悪い思想がドン／＼蔓延して行くのである。

而して斯の如く考へたるとき、我が過去の文明を融合大成した力が何處にあつたかといふ事である。これを内部の神秘的なる説明から云へば我が皇室の稜威の然らしむる所に相違ありませぬ、又大和民族の偉大なる國民精神に基くに違ひありませぬ、如何なる宗教家が出て、如何なる學者が出て、皆これは大和民族であります、又如何なる善い事も皆な皇室の稜威でありますけれども、皇室の稜威とか國民性の然らしむといふのは一方の言ひ方である、事實實際合はぬものは合ひはしない、合ふべき性質のものではないれば合はぬ。陛下の稜威と雖も決して石と石とを合せてそれが孔子に

ならぬ、成るべきものでなければ成らぬ、そんな奇蹟みたやうな事を言つても駄目ぢや、この偉大なる三つの教は聖徳太子の言はれる通り、この三法は天然の法則であつて、人間の私に作つたものでないから、處を異にし時を異にして現はれたけれども、三教の中には一脈の合して流れて居る所の大思想があつて、この神儒佛の三教に於ては確に調和統一して進むといふことを聖徳太子が言はれた、それが本當である。どうしても異なる所の思想、例へば今の共產主義であるとか、又はサンデカリズムであるとかいふやうな思想を如何に皇室の稜威であるからといつても、それが惟神の教とどうして調和するものか、何でも稜威なら行けるといふやうな樂觀は、學者としての思想を研究する態度ではない、お有難主義ぢや。稜威は稜威であるが、その稜威の稜威たる所以は、佛教の如き宗教が早くから日本の文化に入つて來て居るといふ事、百濟の聖明王が佛教を貢獻する、續いて傳教出で、弘法出で、日蓮出づるといふ事は、稜威の然らしむる所ぢや。諸君考へて見たまへ、孔子の教をいくら研究しても、佛教と